

いまだに韓国政府が賠償金を要求し続ける
慰安婦問題
桜井よしこ氏 対 吉田清治氏・植村隆氏

1月24日のブログで読む産経ニュースに桜井よしこ氏の「植村氏の記事への評価、変えない」と題する記事が掲載された。吉田清治氏の「慰安婦は強制連行」

という記事を朝日新聞が取り上げ始めたときから、捏造記事と喝破していらしたのが政治評論家の桜井よしこ氏である。36年前に朝日新聞に「慰安婦は強制連行」という植村氏の記事が掲載されたときから、ハッキリと捏造と述べられ、その後どんなに左派の評論家から叩かれても、説を曲げなかった桜井氏の勇氣に私は感服している。今回の記事の中でも、桜井氏ははっきりとこの問題は捏造であったことを、確実な資料を掲げて述べていらっしやる。

「確かに朝日新聞は吉田氏の証言は虚偽であったことを認めて、関連記事を取り消しました。しかし、それは最初の吉田清治氏の紹介記事から、実に32年後のことでした。この間、吉田氏の証言は、韓国済州島の現地新聞によって、あるいは現代日本史の権威と称する秦郁彦氏によって、事実無根であることが証明され、その内容も報道されました。それらの指摘と報道は、朝日にとって、吉田証言を虚偽と認め、取り消し、訂正する機会であったにもかかわらず、朝日はそうしませんでした。自らの間違いに目をつぶり続けることは、言論機関として許されないだけでなく、日本と日本国民の名誉を傷つけた点で、重い責任を負うものです。(中略)吉田氏は虚構の強制連行を具体的に語って見せ、日本政府及び日本軍を加害者と位置付けました。

加害者としての日本軍のイメージが広がる中で、今度は植村隆氏が91年8月11日、金学順さんという女性についての記事を書きました。この記事には彼女の名前は出てきませんが、植村氏は、金学順さんが『女子挺身隊の名で戦場に連行された』

ポトマック通信 2019年(平成31年)新年号

編集者・発行人
ワイルス蓉子(Yoko Wiles),
Silver Spring, Maryland, USA

と書きました。しかし、母親によって姝生(キーセン)に売られたという事実には触れませんでした。ともかく、初めて名のり出た慰安婦を報じた植村氏の記事は世紀のスクープでした。しかし、それからわずか3日後、彼女はソウルで記者会見に臨み、実名を公表し、貧しさ故に親によってキーセンの検番に売られ、検番の義父によって中国に連れて行かれた事実を語っています。」

吉田清治氏と植村隆氏については、ウィキペディアで調べたが、両人が「慰安婦」について、間違った証言をしたことがはっきりと書かれてある。以下はウィキペディアで調べた両氏の略歴である。

吉田清治： 1913年(大正2年)10月15日生。2000年(平成12年)7月30日没)吉田氏の出目や略歴は時と場所で頻繁に内容が変わったり、矛盾が多く含まれており、はっきりとしていない。1998年ごろを最後に消息不明になったが、2014年になって2000年7月頃にすでに死去していたことが判明した。

植村隆： 1958年(昭和33年)、高知県須崎市で出生。土佐高校、早稲田大学政経学部政治学科を卒業。1982年

(昭和57年)朝日新聞社入社。仙台支局、千葉支局に勤務。1987年8月、韓国延世大学に留学。1988年8月、東京本社に戻り外務部に勤務。1993年8月テヘラン特派員。さらに、ソウル、北京特派員を歴任。ソウル特派員時代に、従軍慰安婦に関する記事を19本書いた。2014年3月朝日新聞退社。仙台支

局時代に結婚した妻と離婚。現在の妻は韓国人で、太平洋戦争犠牲者遺族会で働いていた女性である。植村氏が従軍慰安婦問題を取材するため訪韓した際、証人探しに難航していた時に知り合い、1991年（平成3年）に結婚した。彼女の母親は同会幹部の梁順任（ヤン・スムニ）である。1991年8月 大阪本社社会部勤務、たびたび朝鮮人従軍慰安婦の記事を書いた。2008年（平成20年）11月、朝日新聞で2007年の4月から翌年3月まで連載された「新聞と戦争」取材班の一員として、第8回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。

私は1930年生まれ、小学校2年生のときに日中戦争が始まり、小学校6年生の時に太平洋戦争が始まり、女学校4年生の時に、日本の敗戦でやっと戦争が終結したという、まさに戦争が一般国民にどういふ犠牲を強いるかということをもって体験した世代である。それだけに、戦後72年、戦争が終わってから10年以上も経って生まれた世代の人々によって、当時のことが曲げて伝えられているのを見聞すると、我々の世代の生き残りが声を挙げなければ、当時の出来事は曲げて伝えられてしまうと大いに危惧している。

ここではっきり書かせてもらえば、植村隆氏は慰安婦問題を韓国人が申し立てる一方的な話だけで書いていらっしやると思えない。当時日本にも日本の統治下であった朝鮮にも公娼制度が認められ、貧家に生まれた女性は家族の犠牲になって娼家に売られていったという「女性哀史」が分からなければ、この問題を書く資格はな

いと思う。私は植村氏のような方が、「新聞と戦争」の取材班の一員として、早稲田ジャーナリズム大賞を受賞されたことだけでも、如何に戦争中の出来事が曲げて伝えられているかの、良い証拠だと思う。そして、彼に早稲田ジャーナリズム大賞が与えられたと言うことは、日本の権威ある言論機関ですら、歴史的考察が十分でないことに、市井の一介の物書きは驚いている。

桜井よしこ氏は植村氏について以下のように書いていらっしやる。

「植村氏は捏造と書かれて名誉が棄損（きそん）されたと訴えています。しかし、植村氏は、自身の記事がどれだけ多くの先人たち、私たちの父や祖父、そして現在歴史的ぬれぎぬを着せられている無数の日本人、アメリカをはじめ海外で暮らす日本人、学校でいじめにあっている在外日本人の子供たち、そうした人々がどれほど不名誉に苦しんでいるか、未来の日本人たちがどれほどの不名誉に苦しみ続けなければならないのか、こうしたことを考えたことがあるのでしょうか。植村氏の記事は、32年間も慰安婦報道の誤りを正さなかった朝日新聞の罪と共に、多くの日本人の心の中で、許し難い報道として記憶されることでしょう。」

まさに「ヒア、ヒア」と叫びたいような桜井氏の言葉である。

また、「慰安婦問題」が国連の人権問題委員会できりあげられ、韓国政府の一方的な捏造話だけが取り上げ続けられていることに真実を伝えるべく立ち上げたのが「なでしこアクション」（Japanese Women for Justice and Peace）という非営利団体

である。山本婦美子代表は、この問題について以下のように述べていらっしやる。

「1900年代、ある日本人が国連で慰安婦は性奴隷だと何度も訴え続けました。当時の日本人のほとんどはそれに気づかず、誰も否定もしませんでした。その結果、国連では『慰安婦は性奴隷』ということになってしまいました。そして、国連から世界に広まり、今では米国に慰安婦性奴隷の碑まで建っています。」

そして、山本氏はニューヨークで発行されている日本語の新聞に掲載された意見広告の中で、以下のように述べていらっしやる。

「韓国では、学校で慰安婦について教えるそうです。教科書には『慰安婦は劣悪な環境下で、疾病、暴行、自殺で死んでいく人も多かった。戦争で敗北し、逃亡する日本軍に集団殺害されたりもした』と、記述されています。（中略）一方で、日本を訪れる中国人と韓国人が増えており日本は中国人と韓国人にとって人気のある観光地なのです。日本を訪れた中国人や韓国人は、日本の町の清潔さ、日本人の親切さ、食事のおいしさに満足して帰っていきます。」

イギリスの政治家で哲学者でもあるエドモンド・パークの言葉で、私が好きな言葉があります。『国家とは、今生きている人たちだけでの協力だけで出来るものではない。今生きている人たち、亡くなった人たち、そしてこれから生まれてくる人たちの共同事業である。』

来年は平成が終わり、新しい元号が始まります。（中略）時代が新しく変わっていくときに、捏造の歴史と政治プロパガンダ、そこから生まれる恨みや誤解、憎

しみの感情を次の世代に残したくありません。」

「慰安婦問題」は捏造され誇張されて語られていることは、あらゆる歴史的観点から考察しても明らかである。この問題の根底には、72年前までの日本と韓国では、如何に女性の社会的地位が低かったか、貧困層に生まれた女子は、家族の犠牲になるのが当然という風潮があったことである。そして、そういう歴史を全く知らないか、故意に無視している人たちによって、いつまでも、取り上げ続けられているのである。山本氏のおっしゃる通り、韓国の為政者たちも、慰安婦問題を捏造して恨みや誤解や憎しみを次の世代に残さないよう、新たに平和で親密な日韓関係を築くよう、お互いに協力していくことを切に願うものである。

そして最後に植村氏に言いたいのは、「貴方も日本人なら、母国の名誉のために、もっとよく事実を調べて、かつての記事の誤りを率直に認めなさい」と言うことである。

付記： 12月11日の産経ニュースによれば、韓国外務省当局者によると、韓国政府の来年度の予算に、慰安婦問題を国際社会で認知させるための予算が初めて計上され、11日までに国会で成立したとのことである。予算額は4億9800万ウォン（約4980万円）で、慰安婦問題と関連し「紛争下の性暴力」の対応のために国際協力が目的とのことである。慰安婦問題での韓国の経験を国際機関と共有し、国際的な共感をひろげるとのことである。それでは、その中には当然、ヴェトナム戦争中に、韓国兵による村民を虐殺した事件や、

強姦によって生まれた多くの韓国孤児のこともふくまれるのであろうか。ベトナム戦争中に、ベトナム女性を強姦して生まれた落とし子に対しては、頬被りを続けた韓国が、そのことも含めて「紛争下の性暴力」を語らなければ、あまりにも恥しらずではないかと思う。